様式８

論　文　内　容　要　旨

題　目

Preventive effects of mouthguard use while sleeping on recurrent aphthous stomatitis: Preliminary interventional study

（就寝時マウスガードを使用することによる、再発性アフタ性口内炎に対する予防効果：予備的介入研究）

著　者　　多田　英介（口腔分子病態学分野）

内容要旨

【目的】

再発性アフタ口内炎（Recurrent Aphthous Stomatitis : RAS）は、口腔内に再発を繰り返すアフタ性潰瘍で、しばしば激痛を伴う。RAS 患者は、疼痛の強さのみならず、再発の心理的不安など QOL を低下させる要因となっている。しかし、その病因は完全には解明されておらず、現在の治療は対症療法のみで、再発を防止するのは困難である。日常の臨床経験において、著者は、ブラキシズム治療のためにナイトガードを使用している患者に、RAS の発症が抑制されていることに気がついた。そこで、本研究では、就寝時のマウスガード装着による RAS の予防効果を検討した。

【材料及び方法】

臨床試験では、月に少なくとも一度は RAS を発症する被検者 20 人を対象とし、インフォームドコンセント後、介入（就寝時マウスガード使用）の前後 60 日間の口腔内の状態を被検者自身に記録してもらった。1 mm 厚の EVA シートを用いて、被検者の上顎に適合するマウスガードを作り、就寝時使用してもらった。また、被検者 6 名から介入前後の唾液を採取し、IL-6 と上皮増殖因子（EGF）の分泌量を ELISA 法により測定した。予備研究として、1 名の RAS 患者より介入前後の計 40 日間の唾液を採取し、マルチプレックスによりサイトカイン・ケモカインの発現量を網羅的に解析した。

【結果】

就寝時のマウスガード装着によって、RAS 発生数の平均値は 5.5 回から 1.0 回に有意に減少した。また、RAS の発症から治癒までの平均日数は 7.3 日から 5.6 日に有意に減少した。RAS が口腔内に存在した期間も、60 日間の内、マウスガード使用で 31.5 日間から 5.0 日間に有意に減少した。唾液中のサイトカイン・ケモカインの発現量の網羅的解析から、マウスガード装着により減少した IL-6 および EGF に着目し、被検者 6 名の介入前後の唾液で検討したところ、有意差は認められなかったが、IL-6 が、マウスガード使用中に減少傾向が認められた。

【考察】

以上の結果から、就寝時のマウスガードの使用は、非常に簡易で、臨床的に応用可能な新たな予防法と考えられた。